

先輩からのメッセージ

かわぐちしんご
川口真吾さん (資生堂販売株式会社)



ビューティ
コンサルタント
です

●今の職業を目指したきっかけを聞いてみました

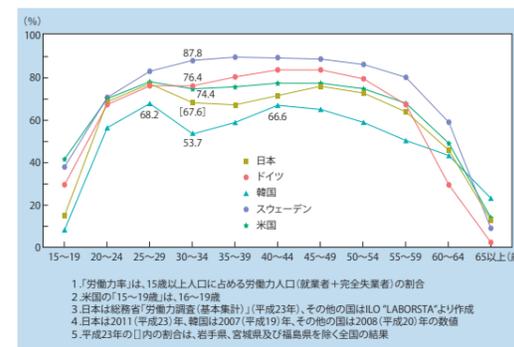
中学生のころは特に考えていませんでしたが、大学に進み、学ぶ中で興味を持ったのが化粧の文化でした。化粧品業界は女性が活躍する職場とされますが、CMや流通の仕方などのしぐみが面白く、就職活動する中で、「化粧品会社で働きたい。」「化粧の技術を習得してお客様を喜ばせたい。」と思い、就職を考えました。

●中学生へのアドバイスを聞いてみました

中学生時代は人との出会いやつながりを大切に、コミュニケーション能力を養うことが大事です。人間関係を広げるために、学校行事に積極的に参加するなど、何か一生懸命取り組むことによって、コミュニケーション能力は磨かれますし、より深く取り組むことによって、さまざまな力を養えると思います。自分から、いろんな人に会いに行く、いろんな世界に出かけて行くことも重要です。

中学生のころに学んだことは、大人になった今でも覚えています。性別にとらわれず、自分らしくやってみることが、とても大事なことだと思います。

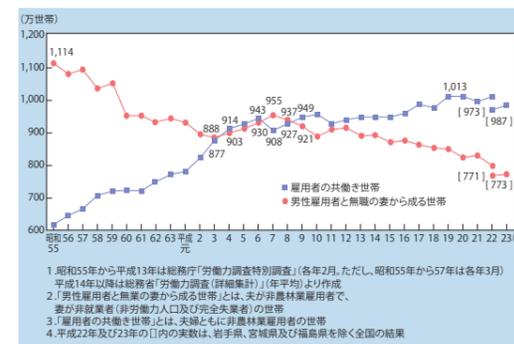
女性の年齢階級別労働力率の国際比較



平成24年度版男女共同参画白書(内閣府)

アメリカ、ドイツ、スウェーデンでは、年齢階級別労働率にM字のくぼみがみられませんが、日本は韓国と同様、M字型がはっきりと見てとれます。日本では、いざんとして結婚、出産、子育て期に就業を中断する女性が多いことが分かります。

共働き等世帯数の推移



平成24年度版男女共同参画白書(内閣府)

「雇用者の共働き世帯」は年々増加し、平成9年以降は「雇用者の共働き世帯」数が「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」数を上回っています。その背景には、女性の社会進出に対する意識の変化や経済情勢の変化があると考えられています。

いしかわひろこ
石川寛子さん (ブラザー工業株式会社)



技術職です

●今の職業を目指したきっかけを聞いてみました

中学生のころから、将来は自分の知識や能力を活かして男性といっしょに働けるような仕事に就きたいと思っていました。学生時代になると、学んだことを活かせる会社で働きたいと具体的に考えるようになり、今の会社に就職しました。

●今の仕事について聞いてみました

開発系の職場は女性が少なく、技術職である自分の周りには女性の管理職やロールモデル(お手本となる働き方や生き方)が、今はほとんどありません。そのため、共感したり相談に乗ってくれたりする相手に困ることもありますが、自分で考え、行動する社風や、周りの理解に助けられてこれまでやっていくことができました。仕事にやりがいを感じているので、周りの理解があれば働き続けたいと思います。家族ができるまでそれまでの働き方とはちがってくるので、その時の自分に合った働き方ができればいいと考えています。

●中学生へのアドバイスを聞いてみました

中学生はいろんな可能性があるのだから、自分らしく選べるように、どんな職業があるかを知り、選択肢を増やしておくことがよいと思います。中学生のころの勉強は、すべてが将来につながっていると思います。